

令和6年度山形県介護生産性向上総合支援センター事業

令和6年度 伴走支援実施施設成果報告

施設名： 特別養護老人ホーム みずほの里

所在地： 山形県上山市

定 員： 80名



取組の目的

① 伴走支援に応募した理由

業務見直しによる効率化、業務の代替となる介護ロボットの提案など、現在の職員配置より少ない人数での運営や、恒常的になっている時間外労働を減らす方法についてアドバイスがほしかった。

② 事業所の抱える課題

現在の業務やケアは、人(職員)がいないと回らない状況にあり、職員が休んだ際の残った職員の負担や、多職種が代わりに業務に入ることがある。また、業務やケアが多く常に忙しいという意識があり、時間外労働が減らないため。

③ 業務改善・効率化の目的

効率良く行えるよう業務を見直し、利用者との関わりを増やす。

生産性向上取組活動①【委員会】

当施設では生産性向上委員会以前から設置していた「DX検討委員会(元介護ロボット検討委員会)」を生産性向上委員会として位置付けた。

①構成等について

- 開 始:平成29年4月1日～ 介護ロボット委員会として発足
- 開催月:毎月第2火曜
- 構成メンバーとそれぞれの主な選出理由と役割
 - ・委員長(理学療法士):身体生活機能を把握、全部署の利用者を把握
 - ・施設長 : 決定権
 - ・事務課長: 予算等
 - ・医務課長: 医務部門の長
 - ・介護課長: 介護部門の長
 - ・介護職員4名 : 現場の意見
 - ・事務職員 : システム、通信、機器操作等

②委員会の活動について

■目的

業務内容を見直し、DX化を進めることで業務負担の軽減・超過勤務の削減・サービスの質の向上・生産性向上を目的とする。

■具体的内容

- ・ 事業所、通り、部署ごとに業務内容の調査を実施
- ・ 業務改善、介護ロボット等で代用できる部分の検討
- ・ 介護ロボット等の情報収集、導入
- ・ 導入結果の検討

生産性向上取組活動②【実行計画】

- ① 伴走支援の成果目標
業務の効率化により、利用者との関わりを増やす
- ② 実行計画(スケジュール)の策定→進捗管理シート参照

《生産性向上に関する主な動き》

伴走支援を受けながらこのような流れで実施した。

7月上旬 対象事業所の現場長へ説明
(取組み目的、タイムスタディ、課題抽出方法について)
7月中旬 タイムスタディ、課題抽出作業開始
8月上旬 タイムスタディ、課題抽出記入物回収、課題まとめ
8月下旬 タイムスタディを基に一部聞き取り調査
9月30日 課題分析、手法(因果関係図)伝達

生産性向上取組活動②【実行計画】

- ③ 取組方法(役割・手順など)の策定→進捗管理シート参照
- ④ 実行前に行った準備
 - ・ DX検討委員会で伴走支援の取り組みについて周知
 - ・ 因果関係図を現場へ説明する前に委員長・施設長・他説明するメンバーで因果関係図を作成する練習を行った。

《センターからの一言ポイント》

課題はたくさんあっても「何は原因でその課題は生まれたのか」という原因を探るためには因果関係図づくりは不可欠です。ここでは因果関係図を現場に落とし込むためにファシリテートする側に十分な説明と練習を行ったことがポイント！

伴走支援で提供のあった様式に実行計画を落とし込む作業を行った

改善方針シート

	課題 1)	課題 2)	課題 3)
改善する課題	夜間巡視により利用者様の眠りを阻害している。また、職員の定期巡視による身体的負担や訪室時の精神的負担が大きい。	物品管理（センサーマット・エアマット・体交枕等）が各通りに分散し管理できていない。	拘縮等のある利用者の入浴時の衣類の着脱に時間がかかり、職員の負担となっている。
改善活動案	定期巡視（訪室）をなくしモニターにて巡視。利用者様睡眠の快適化と職員業務負担の軽減に繋げ、日中帯雑務時間を夜間帯に実施できる体制を確立する。	物品を一か所で管理し、探す時間や効率的な使用を目指す。	着脱しやすい衣類を使用することで、利用者様の身体的負担軽減と職員の介護負担軽減を目指す。
実施する改善活動	眠りスキャンを全床に導入し、巡視体制の見直し業務内容の見直しを実施する。また、タイムスタディを実施し業務状況を把握する。	各通りに物品を回収し、一か所での管理を行う。	ご家族様の協力を得て伸縮性のある衣類へ移行。
課題解決の取り組み優先度	優先度 3	優先度 1	優先度 2
担当者	介護課長	機能訓練指導員	各通り介護主任

■改善方針

活動のゴール	夜勤時職員の身体的精神的負担の軽減。
振り返り (改善活動実施後に記入)	

■進捗管理表

[illegible]

眠りスキャン導入による生産性向上の検証スケジュール

流 れ	時 期		作業内容	詳 細
事前準備	11月	14、15日	取り組み宣言準備	自施設の生産性向上の取り組みを伝える書類等の準備
		18日	調査シート作成	職員アンケート、利用者個別状況シート、準備
職員へ周知		18～22日	取り組み宣言（施設長より）	※施設長説明の他、介護の生産性向上についての動画（YouTube視聴）
実施前アンケート配布			職員アンケート記入、提出	職員アンケート実施（説明を受けた直後記入してもらう）
利用者状況把握		25日～30日	利用者個別状況シート記入（現場職員）	利用者個別毎に現在の夜間睡眠状況を把握。担当職員中心に
実施前アンケート集計		25日	実施前アンケート集計	
現状計測定		26日～12月2日	※職員移動状況確認	万歩計にて夜勤拘束時間帯の歩数計測
検証の実施説明		26日	巡視等についてルール確認と取り決め	現在の巡視状況を基に、眠りスキャン活用方法と訪室のルール決め
全ユニット居室 眠りスキャン導入	12月	4日、5日		
※導入2日間は機器不具合がないか確認時期とし、その後検証に入る。				
検証実施	1回目	12月 2週目（12日～1W）	計測、職員アンケート記入	万歩計での計測行う。職員アンケートは測定1週間後に記入する。
	2回目	12月 4週目（30日～1W）	計測、職員アンケート記入	〃
	最終	1月 3週目（20日～1W）	計測、職員アンケート記入	〃
		27日～31日	利用者個別シート記入	導入前と変わったところなど記入してもらう（個別シートを基に）
集計	1月	4週目	アンケート、利用者個別状況集計	
実績報告	2月			

生産性向上取組活動③【実行】

① 活動実績

今回は、最初にタイムスタディと課題抽出、次に因果関係図づくり、そして取組宣言、導入前後職員アンケート実施、夜間帯職員歩数計測、その後に見守り機器を導入した。

伴走支援を受ける前の段階では今年度の見守り機器導入台数が5台の予定だったが、導入台数を増やし全床に導入とし、業務を見直すことで生産性向上につなげることができた。

② 取組活動で苦労したこと、失敗例など

職員への事前説明について、最初に取り組み宣言を行っておらず、宣言が見守り機器導入直前になってしまった。現場の職員にとっては余計な仕事(タイムスタディなど)をやらされたとの不満の声があった。宣言することにより取り組みが自分たちの負担軽減や利用者の方たちと関わる時間が持てる事をわかってもらえた。

③ 工夫したこと(取り組み宣言について)

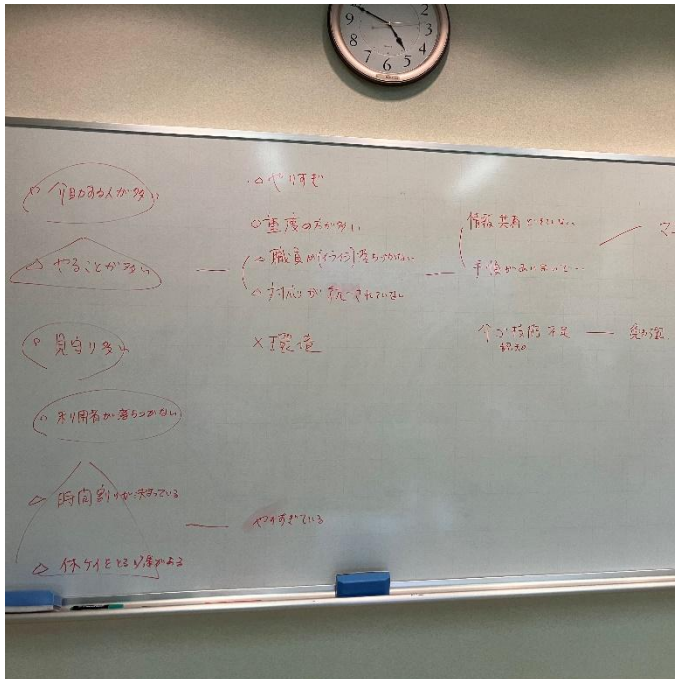
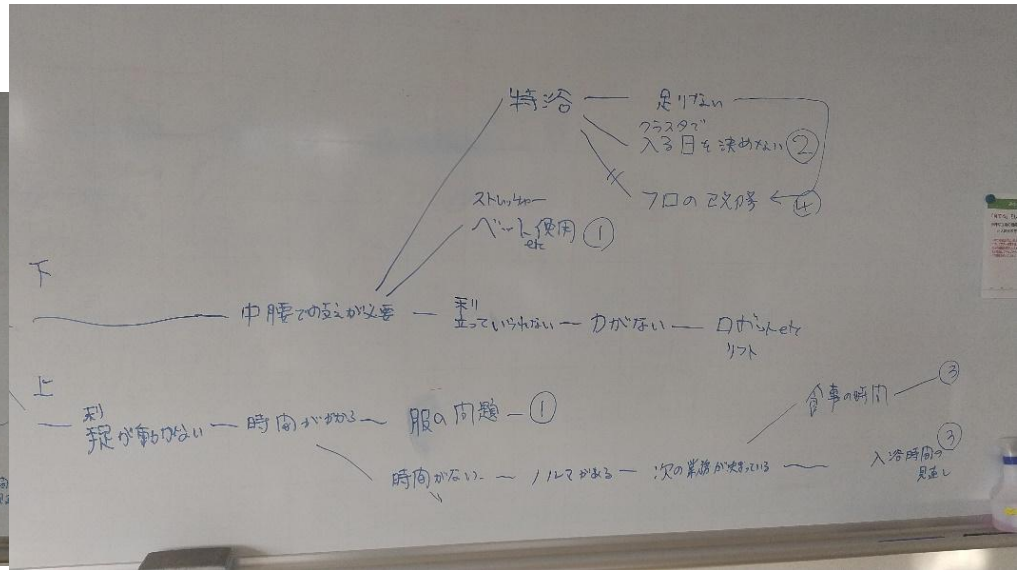
取り組み宣言書に施設長の名前だけでなく、顔写真も載せた事で、より心に響くものになった。また、現場長に説明する前に因果関係図作成の練習をしたことで説明する側の理解も深まった。

入浴

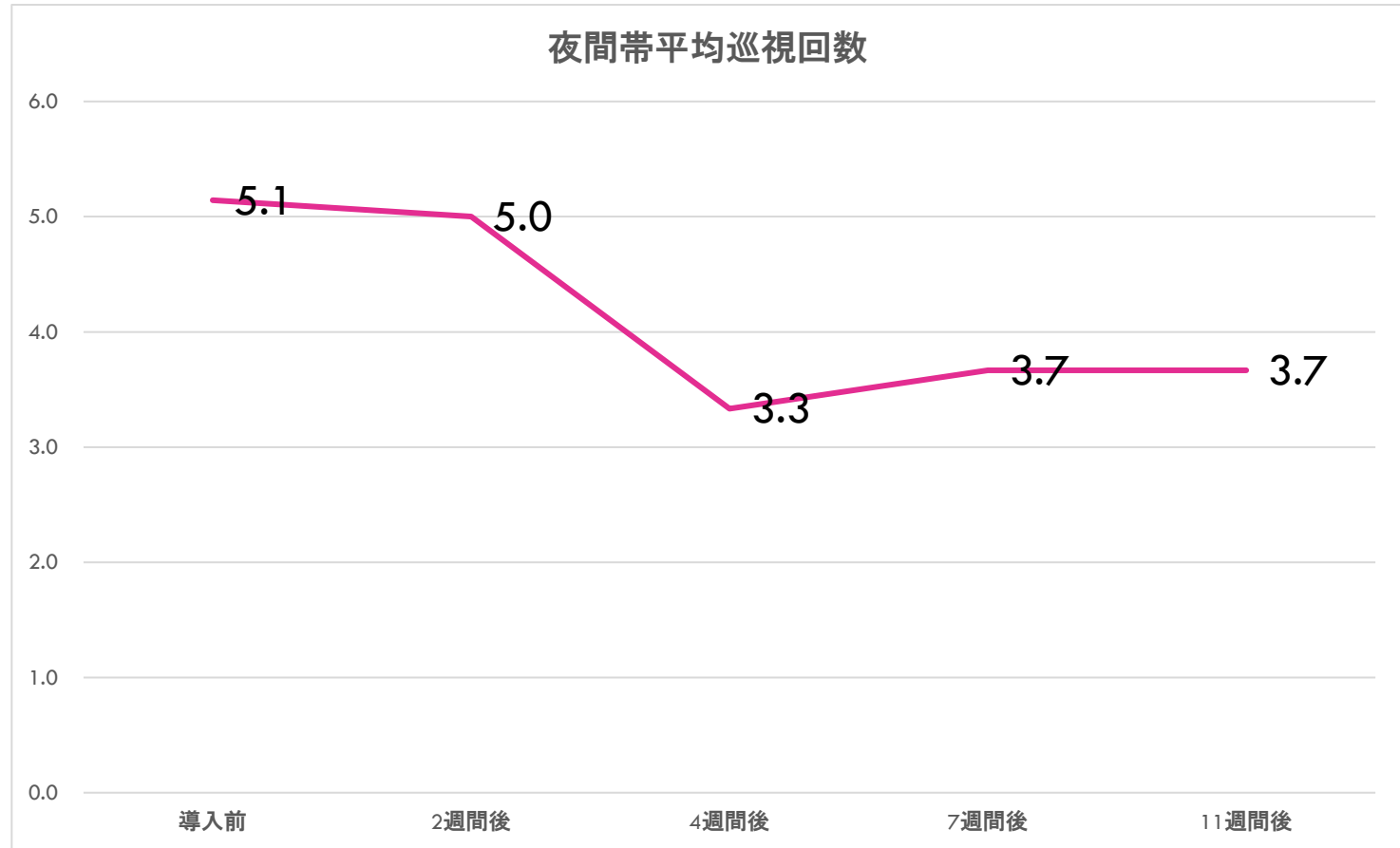
下
利
— 止まらない — 中腰の圧が必要 —

上
利
— 報がわからない — 時間がある — 服の問題 —

時間がない — ノルマがある — 欠の業務が終わる — 入浴時間

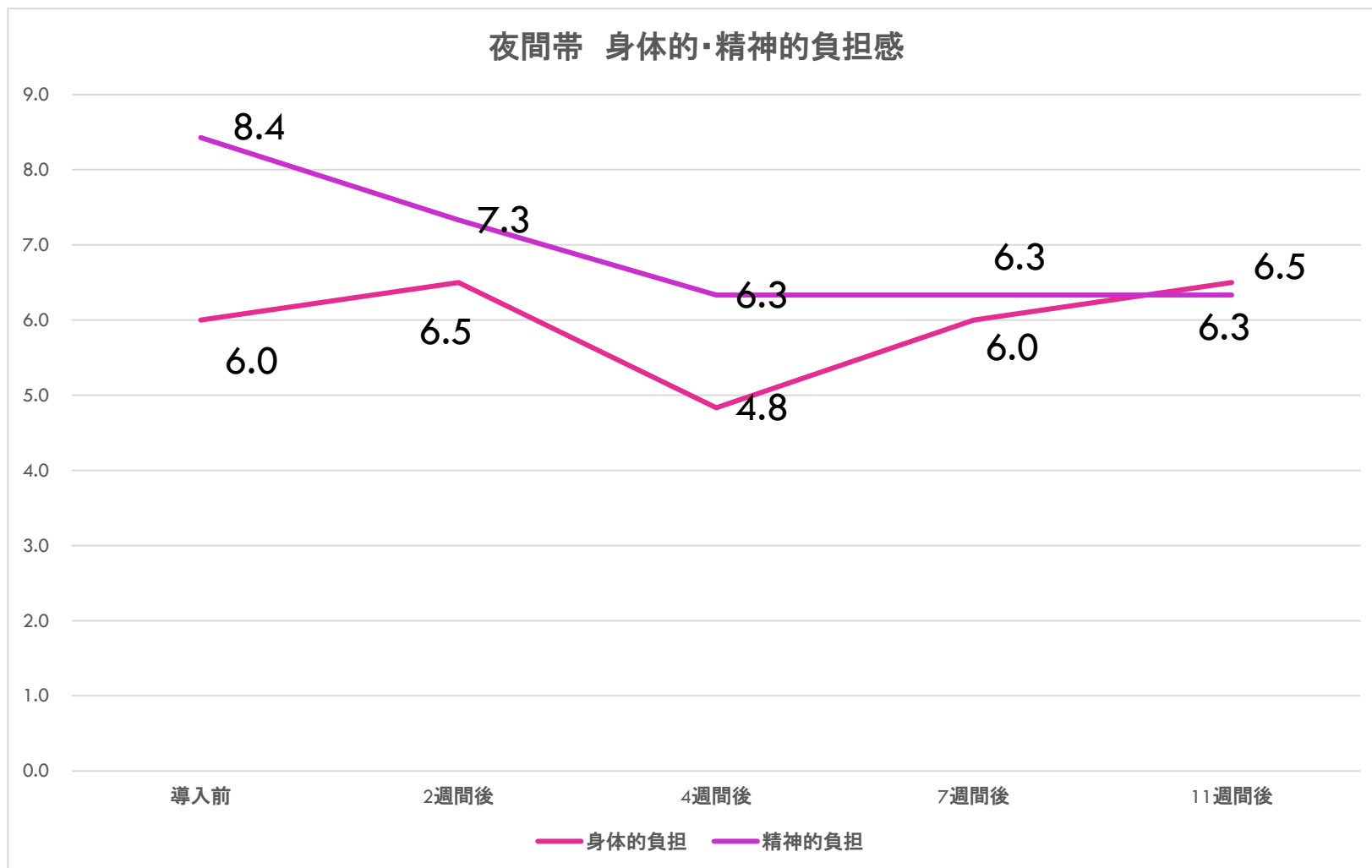
[illegible]

生産性向上取組活動の成果



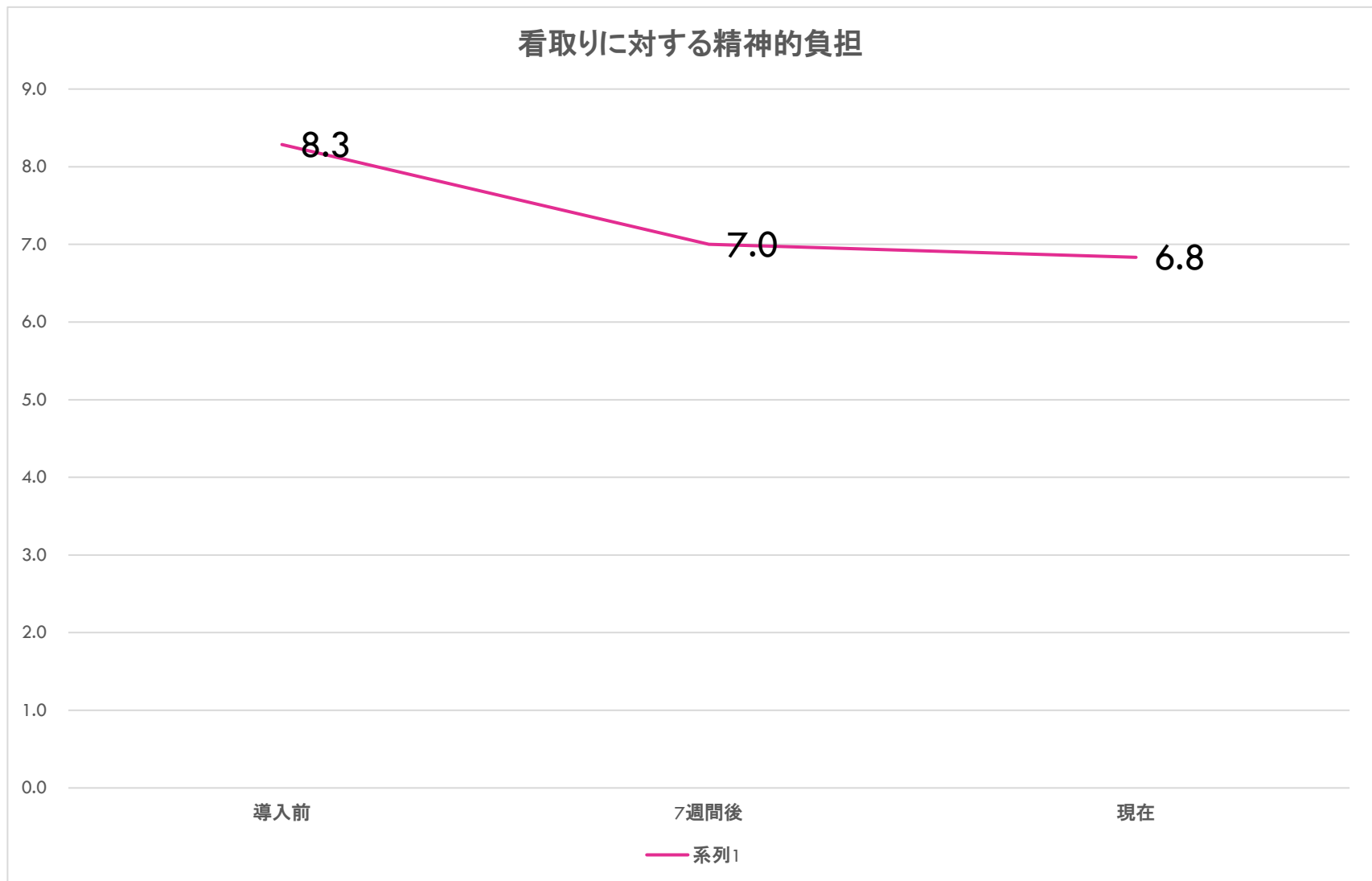
夜間帯平均巡視回数

定期で2時間置きとしていたが、必要性に応じて訪室することで 30%減となった。



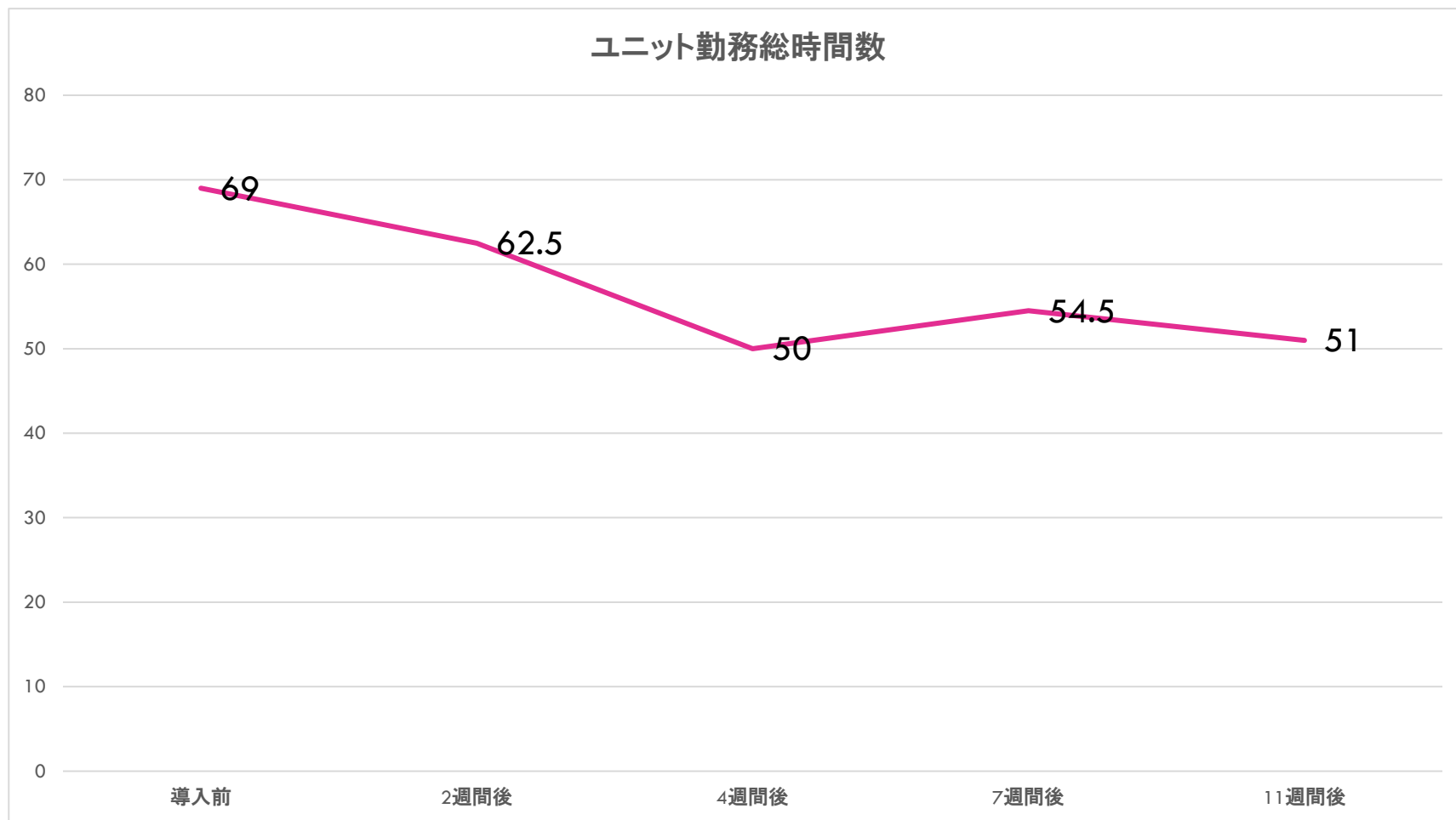
夜間帯の身体的・精神的負担感

精神的負担は右下がりとなった。この調査期間に身体的負担が上昇したのは、看取りで亡くなった方の対応がその時期にあったため増えている。



看取りに対する精神的負担

心拍数と呼吸数がモニターで確認できるため精神的負担が減った。



ユニット勤務総時間数

職員の休職等もあり変動があったが、総時間で計算すると減少となっている。
職員の配置や看取り入居者の状態等もあるため今後も時間外を減らせるよう取り組んでいきたい。

生産性向上取組活動の評価方法

効果検証の方法

- ・ 導入前後の職員アンケートの実施と、夜間帯職員歩数計測

職員の声

～導入して良かった事～

- ・ 巡視の精神的な負担が減った。
- ・ 排泄、起床、体交等、覚醒しているタイミングで入る事が出来るようになった。
- ・ 睡眠の質が上がっているのではないかと感じる
- ・ 以前よりも早目に対応が出来る時がある。
- ・ 看取りの方に対する対応等、精神的負担は減ったと思う。
- ・ 覚醒から起き上がりが正確で、トイレに起きる方の転倒予防になっている。
- ・ 定期巡回がモニター確認でできることにより事務作業や記録に時間が取れるようになった。

～その他～

- ・ もっと上手く活用していれば更にいいケアに繋がれると思うが、なかなかデータの分析までできていない。
- ・ 看取りの利用者様の設定等、見直して活用していければと思う。
- ・ 呼吸、心拍検知の異常から、利用者様の対応が出来るのではないかとと思う。

まとめ

① 取組活動を通じて得た気づき、学び、感じたこと

介護ロボットについては平成29年頃から積極的に視察に出向き、導入を進めてきたが、直接生産性の向上につながらないのが悩みとなっていた。この度の伴走支援を受け、目的を明確にしてからの導入が必要であることや、因果関係図により現場で挙げた課題を、現場で案を出して解決することができるのだと学んだ。

今後も、課題の解決方法として因果関係図を活用しながら、職員が一丸となって目的をもって取り組めるように進めていきたい。

② これから取り組む課題とその理由

今回の導入同様、見守りシステムの整備による巡視や精神的身体的負担の軽減について継続的に検討したい。今回の目的のひとつである時間外労働の減少までは至っていないため、更に検討を重ねたいと思う。

また、因果関係図による課題整理と解決案について各部署で進めており、入浴、移乗、更衣など、何が負担の要因なのかを追求しながら積極的にロボットの導入や勤務の在り方の変更など進めていきたい。

③ 事業所としての今後の方針

生産性向上は事業計画にも挙げており、今回取り組んだ入所部門だけではなく、全事業所で取り組みたい。